

研究課題名	新型コロナウイルス肺炎に対する抜管後ハイフロー酸素療法時の再挿管予測における ROX 指標の有用性の検討
研究責任者名	広島大学大学院 救急集中治療医学 職名 教授 氏名 志馬 伸朗
研究期間	2021年11月22日(倫理委員会承認後)～2023年12月31日
対象者	2020年3月1日～2022年12月31日の間に、広島大学病院救急集中治療科で新型コロナウイルス(COVID-19)肺炎に対して人工呼吸器で治療された後に抜管できた患者さんのうち、抜管後にハイフロー酸素療法(High-Flow Nasal Cannula: HFNC)を装着された患者さんです。
意義・目的	重症新型コロナウイルス(COVID-19)肺炎の抜管後の呼吸管理としてハイフロー酸素療法(High-Flow Nasal Cannula: HFNC)が使用されますが、治療に反応せず呼吸状態が再増悪し再挿管に至る症例も存在します。COVID-19肺炎におけるHFNC療法の挿管予測因子として知られるROX(respiratory rate-oxygenation)指標が抜管後HFNC療法の挿管予測因子となるか検討します。ROX指標の悪化が再挿管を予測できるのであれば、改善させるための介入が早期に実施できる可能性があります。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、年齢、既往歴の有無、COVID-19治療歴、挿管日、抜管日、NHFC装着日時、HFNC装着後の直後、2,4,6,12,18,24時間における呼吸数とSpO ₂ とFIO ₂ 、HFNCの設定、再挿管日時、入院時のSOFAスコア、入院24時間までのAPACHE IIスコア、転帰となります。これらよりROX指標を算出し再挿管に対する予測能を評価します(個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ)。
既存試料・情報の提供のみ行う機関	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター(責任者:別府 賢) 独立行政法人 市立大津市民病院(責任者:藤野 光洋) 医療法人 徳洲会 八尾徳洲会総合病院(責任者:緒方 嘉隆) 広島大学に情報を集め広島大学大学院 医系科学研究科 救急集中治療医学(責任者:志馬 伸朗)が解析します。
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院 医系科学研究科 救急集中治療医学(責任者:志馬 伸朗)
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益

が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5588

広島大学大学院 医系科学研究科 救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗

研究機関：広島大学